

環境・安全レポート 2019

(レスポンシブル・ケア活動報告)



FM-IVプラント

株式会社 **ADEKA**

三重工場

目次

1. はじめに	1 頁
2. 三重工場の概要	2 頁
3. 工場方針	3 頁
4. 環境マネジメントシステムの状況	4 頁
(1) 環境管理推進組織	4 頁
(2) 資格取得者一覧	4 頁
5. 環境管理活動	5 頁
(1) 環境目標	5 頁
(2) 環境パフォーマンス	5 頁
(2.1) 環境負荷のインプット	6 頁
(2.2) 環境負荷のアウトプット	6・7・8 頁
(3) 環境会計	8 頁
(4) グリーン調達（事務用品）	8 頁
6. 安全衛生活動	9 頁
(1) 労働安全衛生目標	9 頁
(2) 安全衛生活動の取り組み	9 頁
(3) 保安活動	10 頁
7. 社会貢献活動	11 頁
(1) 地域とのコミュニケーション	11 頁
(2) 清掃活動	11 頁
アンケート	12 頁

1. はじめに

株式会社 ADEKA は 1917 年に電解法による苛性ソーダの製造を目的として設立し（当時の商号は「旭電化工業株式会社」、2017 年に創立 100 周年を迎えました。ADEKA グループは「新しい潮流の変化に鋭敏であり続けるアグレッシブな先進企業を目指す」、「世界とともに生きる」を経営理念として、「法令の遵守と社会倫理に則った公正・透明な企業活動」、「安全で高品質な商品・サービスの提供」、「環境の保全」、「社会からの信頼確保のための友好的かつ積極的なコミュニケーション・社会貢献活動」、「適正かつ公正な情報開示」、「働きやすい職場環境」、「反社会的勢力の排除」、「健全で持続的な発展と社会への還元」の 8 つを行動憲章としています。企業の社会的責任と経済的発展を両立させるという命題に対して ADEKA グループ一丸となって取り組んでいます。

三重工場は 1965 年の創業以来、プラスチック用樹脂添加剤や情報化学品材料などを製造してきましたが、従来から「環境保全是工場の発展・存続のための最重要インフラ」と位置づけ、同業他社に先駆け環境保全の管理を向上させてきました。これを徹底させるための国際基準である「ISO14001：環境マネジメントシステム」に基づいた改善活動を行っています。また、労働安全衛生も環境保全同様に重要との認識の下に、「ISO45001：労働安全衛生マネジメントシステム」に基づいた改善活動を行っています。今後とも、安全・安心でありかつ信頼を得られる工場であり続けられるよう、工場一体となって更なる改善・改革に取り組んでいく所存です。

本報告書は、2018 年度の三重工場の環境・安全に対する取り組みとその成果をまとめたものです。環境面では ①公害・苦情の発生ゼロ ②省エネルギーの推進 ③廃棄物削減 ④グリーン調達の推進 ⑤ゼロエミッションの推進を目標として掲げ、取り組んでまいりました。安全面では、労働災害と通勤途上災害を 0 件にすること（ゼロ災の達成）を目標として掲げ、展開してまいりました。また、南海トラフ巨大地震に備えた BCP【事業継続計画】を作成し、そのレベルアップを図るとともに、緊急時の対処訓練を繰り返し行うことで、災害に強い工場作りに取り組んでいます。

2019 年度は 2018 年度の結果とその反省を踏まえ、更に継続的な改善・改革に取り組んでいます。

三重工場は、地域に根ざした企業として、行政や地域社会とのパートナーシップを更に深め、あらゆる機会を通じ地域の発展と環境保全に尽力し、「環境調和型企业」の実現に向けて努力をしていきます。

三重工場の環境保全・安全対策の諸活動を皆様にご理解いただくと共に、ご意見・ご指導をいただければ幸いです。

2019 年 8 月

株式会社  ADEKA

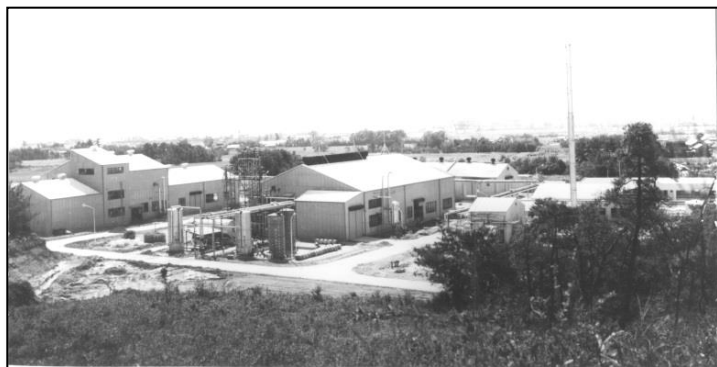
三重工場長 **澤田 俊夫**

2. 三重工場の概要

所在地	: 三重県員弁郡東員町山田 3707-1
工場開設	: 1965年（昭和40年）10月
敷地面積	: 144,465 m ² （43,711 坪）
常駐協力会社	: ADEKA 総合設備(株)、ADEKA 物流(株)、(株)ケイエス、三重加工サービス(株)
生産品目	: 塩化ビニル用安定剤、塩化ビニル・ゴム用可塑剤、ポリオレフィン用抗酸化剤・光安定剤などの樹脂添加剤、感熱紙用添加剤、光重合開始剤・エポキシ樹脂接着剤などの情報化学品材料

工場沿革

年	沿革
1965	アデカ・アーガス化学(株)三重工場として操業開始
1970	塩ビ用無毒安定剤製造棟（N プラント）完成
1980	ポリオレフィン用添加剤製造棟（MP プラント）完成
1986	抗酸化剤製造棟（SP プラント）完成
1990	旭電化工業(株)と合併、ポリオレフィン添加剤大型製造棟（FM プラント）完成
1991	ポリエステル系可塑剤大型製造棟（PN プラント）完成
1993	ISO 9002（品質管理マネジメントシステム）の認証取得、 情報化学品製造棟（CL-I プラント）完成
1995	TPM 第1類受賞、FM プラント増能（FM-II プラント）完成
1996	ISO 14001（環境管理マネジメントシステム）の認証取得
1999	光記録材料製造棟（LMS プラント）完成
2000	OH & S 8800（労働安全衛生システム）適合（2001年に OHSAS 18001へ切替え）
2004	FM プラント増能（FM-III プラント）完成
2006	株式会社 ADEKA へ社名変更
2007	FPD 向け情報化学品製造棟（CL-II プラント）完成、CL-II 検査棟完成
2008	中実験棟（スケールアップ検討設備）完成
2009	添加剤ワンパック顆粒品製造棟（G-III プラント）完成
2013	BCP（事業継続計画）運用開始
2015	工場創業 50 周年
2017	高機能添加剤製造棟（SP-III プラント）完成
2019	FM プラント増能（FM-IV プラント）完成 ISO 45001（労働安全衛生マネジメントシステム）適合（OHSAS18001より移行）



1965年 工場開設時の全景

3. 工場方針

三重工場は以下の環境方針と労働安全衛生方針を策定し、方針に従って活動しています。

三 重 工 場 環 境 方 針

<理念>

株式会社ADEKA 三重工場は、自然豊かな地域に立地している化学工場であることを認識し、地球環境保全への取り組みを工場運営の最重要課題のひとつと位置づけ、生物多様性と地球温暖化に配慮し、環境と調和した活動を推進し、地球環境にやさしい工場にします。

<方針>

- 法規制の遵守と継続的改善
地球環境に関する法令・協定および当工場が同意した要求事項ならびに社内基準を遵守すると共に、技術的・経済的に可能な範囲で地球環境保全の継続的改善を行います。
- 地球環境負荷の低減
工場活動が地球環境に及ぼす影響を捉え、持続可能な目的・目標を設定し、廃棄物・エネルギー等の地球環境負荷の低減を行います。
- 地球環境保全意識の高揚
環境教育・啓蒙活動を通じて、従業員一人一人が地球環境保全意識を向上させ、自主管理の徹底に取り組みます。
- 生物多様性への取り組み
「生物多様性」の取り組みを推進し、保全を図ります。
- 対外連携の促進
地域社会の一員としての自覚を持ち、積極的な情報公開で意思疎通の充実を図り、社会に安心と信頼を与える工場にします。

2019年 4月 1日
株式会社ADEKA
三重工場長 澤田 俊夫

三 重 工 場 労 働 安 全 衛 生 方 針

<理念>

株式会社ADEKA 三重工場は、社会の一員として労働安全衛生が工場活動の基盤であることを認識し、安全で快適な職場作りを推進すると共に、社会に安心と信頼を与える工場作りを目指します。

<方針>

- 法規制の遵守
労働安全衛生に関する法令・協定および当工場が同意した要求事項ならびに社内基準を遵守します。
- 安全・健康の確保
取り扱い物質および設備の性質を把握し、取り扱い方法・設備の適正な管理を実施し、傷害及び疾病を予防します。適正な目標を定め、作業環境並びに労働安全衛生パフォーマンスの継続的改善に取り組みます。
- 労働安全衛生意識の高揚
教育・啓蒙活動を通じて、従業員一人一人が労働安全衛生意識を向上させ、自主管理の徹底に取り組みます。労働安全衛生目標を設定し、目標を実行するための方向性を示します。
- 対外連携の促進
地域社会の一員としての自覚を持ち、積極的な情報公開で意思疎通の充実を図り、社会に安心と信頼を与える工場作りに努めます。

2019年 4月 1日
株式会社ADEKA
三重工場長 澤田 俊夫

4. 環境マネジメントシステムの状況

(1) 環境管理推進組織

三重工場は ISO 14001 の認証を取得し、環境管理に取り組んでいます。このシステムでは常駐協力会社を含む全ての部門及び階層の役割、責任、権限を明確に規定しており、この規定に基づいて工場一体となった環境保全活動を行っています。

(2) 資格取得者一覧

三重工場では、働く全ての人々に対して環境マネジメントシステムの周知と自覚の徹底を図っています。全員のレベル向上と環境の継続的改善を進めるため、全ての部署で計画に基づいた教育訓練を実施しています。また、公的資格の取得にも努めています。主たる資格の取得者一覧を次に示しました。

表-1. 主たる資格の取得者一覧表（2019年5月末現在）

該当法規制	資格名称	必要人数	取得者数	対前年
大気汚染防止法	公害防止管理者 大気 1種、2種	2名	11名	+1
水質汚濁防止法	公害防止管理者 水質 1種、2種	2名	9名	-1
廃棄物処理法	産業廃棄物焼却施設技術管理士	1名	3名	±0
"	産業廃棄物中間処理施設技術管理士	1名	2名	±0
"	特別管理産業廃棄物管理責任者講習修了者	1名	6名	±0
労働安全衛生法	有機溶剤作業主任者技能講習修了者	27名	138名	-5
"	特定化学物質及び四アルキル鉛等作業主任者技能講習修了者	27名	134名	+1
"	酸素欠乏・硫化水素危険作業主任者技能講習修了者	29名	137名	+5
"	第一種圧力容器取扱作業主任者技能講習修了者	13名	83名	+1
"	乾燥設備作業主任者技能講習修了者	9名	57名	+4
"	フォークリフト免許取得者	86名	165名	+1
"	クレーン運転業務特別教育修了者	21名	112名	-1
"	1級ボイラー技士	4名	14名	±0
"	2級ボイラー技士	4名	23名	+3
"	ボイラー整備士	0名	5名	±0
"	第1種 衛生管理者	1名	2名	±0
消防法	危険物取扱者甲種	0名	28名	-3
"	危険物取扱者乙種 4類	28名	121名	+1
"	危険物取扱者乙種 4類以外	7名	81名	+4
省エネ法	エネルギー管理士	1名	2名	-1
高圧ガス保安法	高圧ガス製造保安責任者（冷凍機械）	1名	2名	±0
"	高圧ガス製造保安責任者（乙種化学、丙種化学）	4名	16名	-1
計量法	計量証明事業試験	1名	5名	+1
電気事業法	第2種 電気主任技術者	1名	2名	±0
"	第3種 電気主任技術者	0名	1名	±0
"	高圧・特別高圧電気取扱業務特別教育	1名	1名	±0

5. 環境管理活動

(1) 環境目標

2018年度は、次の目標を掲げ活動してきました。

表-2. 2018年度 環境目標

目標	結果	評価*2
① 公害・環境事故の発生 0件	0件	○
② 省エネルギーの推進		
エネルギー原単位（対総生産量） 対前年1%改善	8.6%悪化	×
CO ₂ 排出量の削減*1 原単位比で対前年1%改善	8.6%悪化	×
③ ゼロエミッションの推進 最終埋め立て比率を0.1%未満	0.10%	×
④ グリーン調達の推進 80%	97.8%	○

*1 エネルギー起源 中間体含む総生産量において *2 評価 ○：目標達成 ×：目標未達

(2) 環境パフォーマンス

表-3. インプットとアウトプットのまとめ

INPUT	項目	単位	2018年度実績	対前年比(%)
【原材料】 (主原料) 	原料使用量	t	22,697	7.4
【エネルギー】 	原油換算量	kℓ	8,698	12.6
	エネルギー原単位	kℓ/t	0.337	8.6
【水】 	地下水汲み上げ量	千t	2,492	6.9
OUTPUT	項目	単位	2018年度実績	対前年比(%)
【大気】 	CO ₂ 排出量原単位	t/t	0.657	8.6
	NO _x 排出量	t	13.4	15.7
【水域】 	排水量*	千t	612	38.8
	COD発生量	t	1.1	-58
	BOD発生量	t	1.8	64
【製品】 	生産量	t	15,596	1.17
【産業廃棄物】 	産業廃棄物発生総量	t	19,283	8.7
	最終埋め立て量	t	20.2	29.7
	ゼロエミッション比率	%	0.10	11.1

*生産に使用した地下水の内、最終的に排水した数量を記載した。

(2.1) 環境負荷のインプット

1) 原材料使用量

2018年度は新設した SP-Ⅲプラントが本格稼働しました。同プラントで製造する製品をはじめ、高機能製品の生産量が増加した結果、主たる原材料の使用量は 22,697t となり 2017 年度に比べて 7.4%増加しました。

原材料の使用量は生産量に比例して増大しますが、資源の有効活用と製造コスト削減の両面から原材料を有効活用する取り組みを継続します。

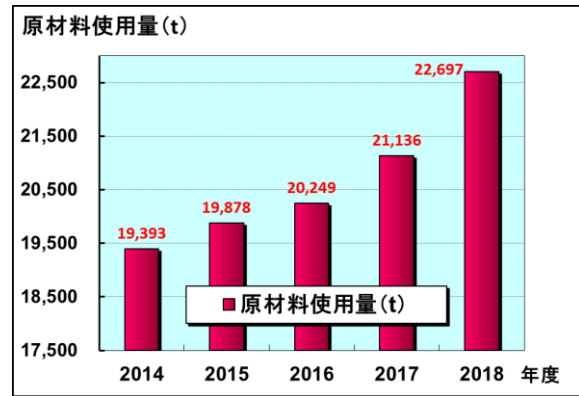


図-1. 原材料使用量

2) エネルギー使用量

三重工場で使用するエネルギーは、加熱用の蒸気を発生させる都市ガスと、動力・照明に使用する電力に分けられます。三重工場では、エネルギー効率を高める為の省エネ機器の導入や、生産効率を高める改善を進めています。2018年度はエネルギー使用量の多い高機能製品の生産量が増えエネルギー原単位は 8.6%増加しましたが、仮に省エネ活動に取り組みない場合の増加率は 10.3%でした (1.7%の抑制効果)。引き続きエネルギー使用の合理化に取り組み、エネルギー原単位の改善を図ります。

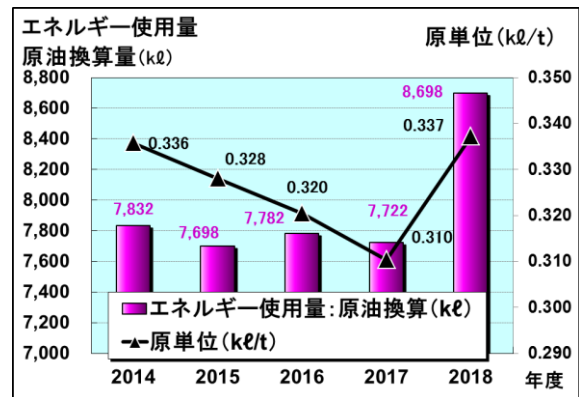


図-2. エネルギー使用量と原単位

*2017年度のエネルギー使用量と原単位を見直した

3) 地下水汲み上げ量

三重工場で使用する水は、主に地下水の汲み上げにより賅っています。工場構内に掘られた井戸から汲み上げられた地下水は、各工程で使用された後、工場から排出されます。地下水を有効に利用するため、冷却塔を活用し再利用を図っています。2018年度の地下水汲み上げ量は、水を多く使用する高機能品の生産数量の増加に伴い、2017年度に比べ 6.9%増加しました。

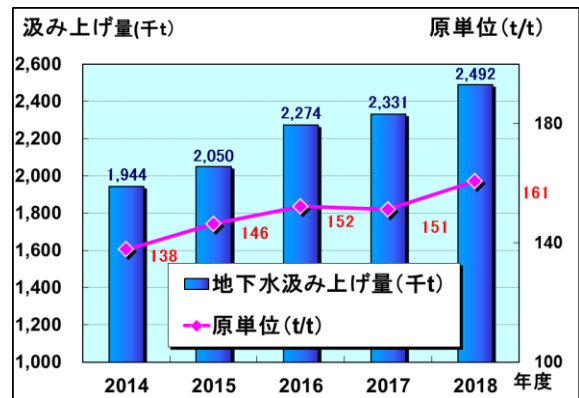


図-3. 地下水汲み上げ量と原単位

(2.2) 環境負荷のアウトプット

1) 大気への排出量

1.1) CO₂ 排出量

2018年度は2017年度に比べ、エネルギー起源の CO₂ 排出量は 12.6%増加しました。中間体を含む総生産量に対する排出量原単位では 8.6%の増加となり、「排出量原単位で 1%以上削減」の目標を達成出来ませんでした。CO₂ 排出量はエネルギー使用量に比例します。三重工場で使用する都市ガスと電力の両面で省エネ活動を進め、排出量の抑制を図ります。

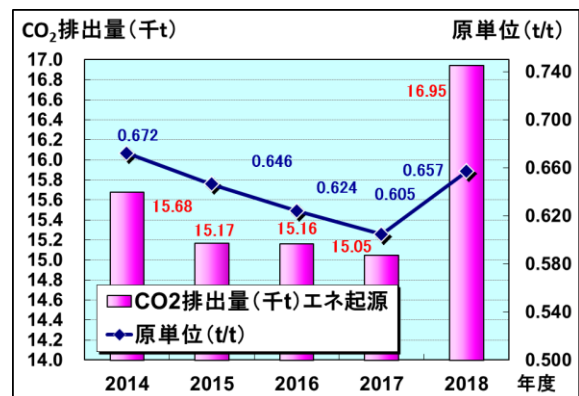


図-4. CO₂ 排出量と原単位

*2017年度のCO₂排出量と原単位を見直した

1.2) NO_x 排出量

三重工場ではプロセスの熱源として蒸気が必要とするため、ボイラーを設置しています。

ボイラーの燃料は都市ガスです。SO_x の排出は無く、NO_x の排出濃度も全ての対象設備・機器で規制値を十分にクリアしています。引き続き適切に維持管理します。

2) 有害化学物質の排出・移動

三重工場では原材料として、多くの化学物質を使用しています。PRTR 法の対象となる第一種指定化学物質の内、年間取扱量が 1t を越える品目は 31 物質でした。これらの物質は PRTR 法に則り、使用量、排出量及び移動量を管理しています。2018 年度の取扱量は品種構成の変化に伴い、2017 年度に対して 4.2%増加しました。引き続き使用量削減の為の工程改善に取り組みます。

3) 水域への排出量と推移

三重工場の製造工程からは 1 日に約 300t の廃水が発生します。廃水は活性汚泥処理を行った後、全量を公共下水道に流しています。工場廃水については工程改善や設備改善を進め、環境負荷の低減に努めています。

4) 産業廃棄物

4.1) 産業廃棄物発生量

生産工程からは各種の産業廃棄物が発生します。2018 年度の産業廃棄物発生量は 19,283t で、2017 年度に比べ 8.7%増加しました。原単位は 0.747t/t で 2017 年度に比べ 4.8%の増加となりました。

生産数量の増加している高機能製品の工程改善を進め廃棄物発生量の削減に取り組むと同時に、資源の有効利用に努めます。

4.2) 産業廃棄物の有効利用

三重工場では、産業廃棄物中間処理施設（廃油焼却炉）の廃熱で蒸気を発生させています。表-4. は各工程で発生した産業廃棄物を焼却した熱を利用して発生した蒸気量を示します。2018 年度も廃熱を有効活用し、その蒸気利用率は 19.3%でした。引き続き、廃熱の活用を通して産業廃棄物を有効活用します。

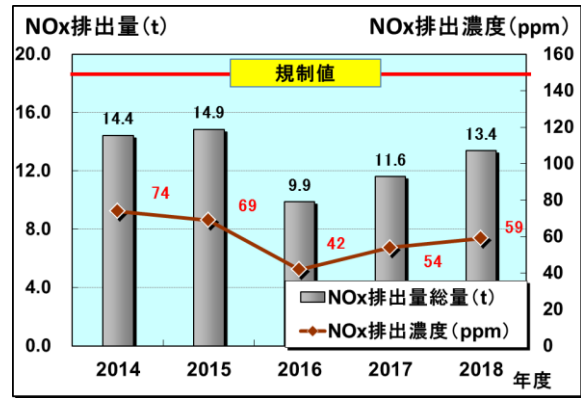


図-5. NO_x 排出量と濃度

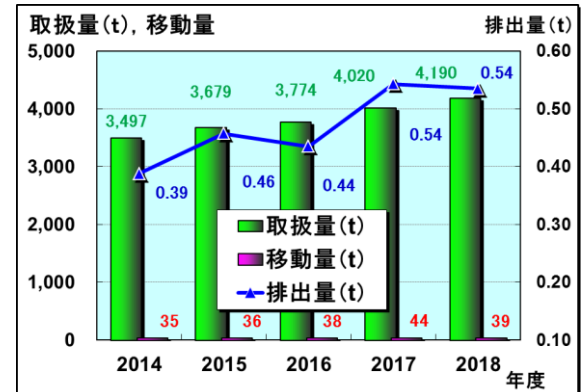


図-6. PRTR 対象物質 取扱・移動・排出量

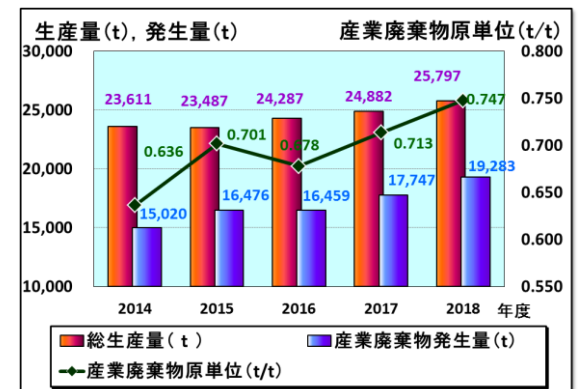


図-7. 産業廃棄物発生量と原単位

*2014 年度、2015 年度、2017 年度の生産数量を見直した

表-4. 廃油焼却炉の廃熱蒸気発生量と廃熱蒸気利用率

	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度
廃熱蒸気発生量 (t)	13,317	12,932	13,275	12,634	12,600
蒸気総使用量 (t)	66,124	64,671	65,247	63,343	65,426
廃熱蒸気利用率 (%)	20.1	20.0	20.3	19.9	19.3

*2016 年度、2017 年度の蒸気総使用量を見直した

4.3) ゼロエミッション比率*

2018 年度は「完全ゼロエミッション」（当社定義）を達成する事は出来ませんでした。

ゼロエミッション比率が増加した原因は、直接埋立てせざるを得ない廃棄物が増加した為です。完全ゼロエミッションを達成する為に、引き続き廃棄物の削減に取り組めます。

*ゼロエミッション比率とは、産業廃棄物発生総量に対する最終埋立て量の比率を言います。当社では0.1%未満を「完全ゼロエミッション」と定義しています。

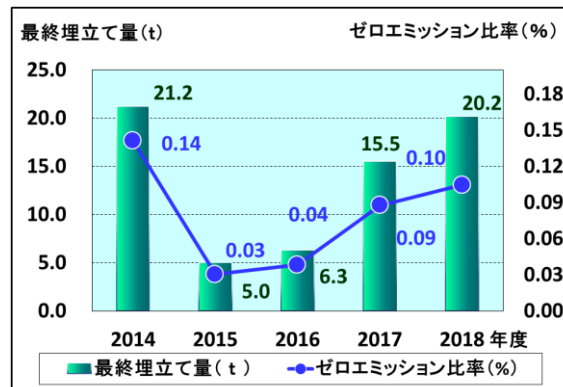


図-8. 最終埋立て量とゼロエミッション比率

(3) 環境会計

2018 年度は大型設備投資が一段落した事から、環境設備投資額、維持管理費用共に 2017 年度に対して減少しました。

表-5. 環境会計

単位:千円

	2017 年度	2018 年度	増減 (%)
総設備投資額	3,545,000	1,268,000	-64.2
環境設備投資額	253,218	231,851	-8.4
維持管理費用	200,711	169,555	-15.5

(4) グリーン調達（事務用品）

三重工場で使用する事務用品は積極的にエコ商品を採用し、グリーン調達比率を高めています。2018 年度のグリーン調達比率は、2017 年度に比べて 10 ポイント上昇しました。

表-6. グリーン調達比率

	2017 年度	2018 年度
① 事務用品購入点数	1,016	864
② エコ商品購入数	897	847
③ 調達比率 (%)	88.3	98.3

6. 安全衛生活動

(1) 労働安全衛生目標

2018年度は、次の目標を掲げ活動してきました。

表-7. 2018年度 安全衛生目標と結果

目標	結果	評価*
1. 労働災害・事故の発生ゼロ	1. 労働災害・事故の発生ゼロ	
① 労働災害 0 件	① 休業災害 0 件・不休災害 0 件 微傷災害 0 件・通勤途上災害 0 件	○ ○
② 事故の発生 0 件	② 事故の発生 0 件	○
③ 危険予知活動の数値目標達成	③ 危険予知活動の数値目標	
i 安全ヒヤリハット報告 400 件/年	i 安全ヒヤリハット報告 668 件	○
ii 危険予知活動 500 件/年	ii 危険予知活動 1,007 件	○
iii 安全改善提案 720 件/年	iii 安全改善提案 1,189 件	○
2. 従業員の健康管理	2. 従業員の健康管理	
① 各種健康診断受診率 100%	① 受診率 100%	○
② 有所見者の完全フォロー	② 有所見者 フォロー率 100%	○

*評価 ○：目標達成 ×：目標未達

(2) 安全衛生活動の取り組み

1) 2018年度の安全成績

2018年度は完全無災害を達成しました。決めたことを守るという意識づけが、徐々に定着してきたと考えています。決めたことを守る風土の醸成を通じた安全活動に取り組みます。

2) 安全活動

ヒヤリハット活動、危険予知活動、安全改善活動などを展開し、災害の予防に努めています。

2018年度は各種安全点検と安全キャンペーンを強化し、過去の災害の再発防止と他事業所の災害を基にした類似災害の予防を図りました。引き続き日常の生産活動における安全意識を高め、事故・災害を防ぎます。

3) 回転機器の安全対策

2018年度は、通常の生産活動では予期されない回転機器へ巻き込まれる災害の予防を目的に、三重工場内の全ての回転機器のリスクを調査しました。引き続き保護カバーの設置を進めます。

4) 教育活動

教育部会を中心として、基礎教育（化学・製品・静電気）、設備教育（各種工具の取扱い、機器構造、電気保安）、保安教育（消火栓取扱い、漏洩対処）を行いました。継続的な教育を通して、現場力を強化します。

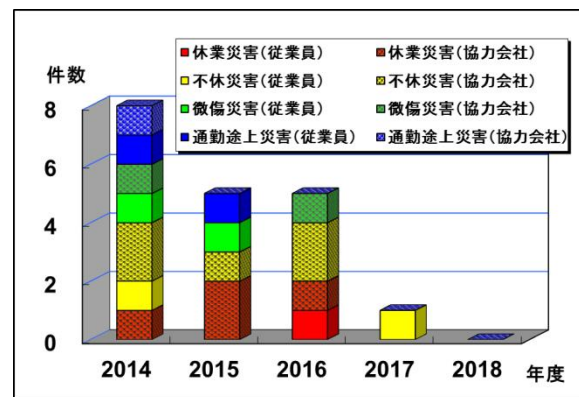
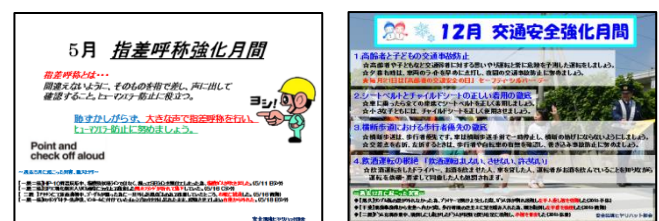


図-9. 災害件数の推移



教育風景



安全キャンペーンの一例

5) 衛生活動

健康診断を 100%実施し、有所見者は 100%フォローしました。

職場における健康診断は、健康状態を把握する基本となる対策です。各種検診を適切に実施し、常に健康に働けるよう保健指導と作業管理、作業環境管理にフィードバックします。

表-8. 健康診断の結果

	2018 年上期		2018 年下期	
	受診率 (%)	有所見率 (%)	受診率 (%)	有所見率 (%)
一般健康診断	100	40.5	100	41.5
特殊健診 (有機溶剤)	100	0	100	0
特殊健診 (特化則)	100	0	100	0
歯牙検診	100	0	100	0

(3) 保安活動

三重工場では、緊急時の対処法について基準・標準などで手順を規定しています。火災やガス洩れなどの緊急事態に対しては、初期段階で検知し警報を発するシステムを備えています。更に、発生部署での初期緊急対処の体制と、工場全体で組織された自衛消防隊が出動する体制を敷いています。

初期緊急対処と自衛消防隊の要員は、消防操法・救急救命等、訓練され経験のある従業員で構成されています。2018 年度は、5 月 24 日に地震発生による火災発生を想定した総合防災訓練（緊急時対処訓練、避難訓練、初期消火訓練）を桑名市消防本部・東員消防署と合同で実施しました。

また、11 月 1 日は緊急地震速報受信後の人員確認と施設安全点検訓練を実施し、3 月 13 日は東員消防署長の審査の下、消火栓操法コンクールを実施し、自衛消防力の向上に努めています。



5 月 24 日 総合防災訓練



3 月 13 日 消火栓操法コンクール

7. 社会貢献活動

(1) 地域とのコミュニケーション

1) 東員町商工祭

地域産業の一翼を担うべく、
商工会活動に積極的に参加しました。



2) 勤労体験・インターンシップ

三重工場は、未来を担う「子供たち・若者たち」の勤労観・職業観の育成に貢献しています。2018年度は地元3校の小中学校の要請により、勤労体験学習を受け入れました。更に地域の高校からはインターンシップの受け入れと企業見学会を実施しました。



3) 地域ボランティア

三重工場は、毎週月曜日の朝に地元団地内の交差点二カ所で、小学校の児童に対して交通指導を実施しています。

4) 障がい者雇用施設のパン販売

工場内で月に1度、障がい者の雇用施設で製造しているパンの販売に協力しています。



(2) 清掃活動

工場周辺の一斉清掃を2018年6月26日と12月18日に実施しました。



この環境・安全レポートに関するご質問、ご意見は下記の窓口へお願いします。

作成	株式会社 ADEKA	三重工場	安全・環境管理委員会事務局	
確認	株式会社 ADEKA	三重工場	安全・環境管理責任者	出口滋樹
窓口	株式会社 ADEKA	三重工場	業務部 業務課長	伊藤博也
住所	〒511-0251	三重県員弁郡東員町山田 3707-1		
TEL	0594-76-2330(代)	FAX	0594-76-3011	

ご意見をお聞かせください

私たちは地球環境の保全と労働安全衛生に積極的に取り組んでいます。

今回、環境・安全レポート 2019 を発行いたしました。未だ不十分な面が多々あるかと思えます。皆様よりいただいたご意見、ご感想を参考とさせていただき、より良い活動を進めたいと考えています。皆様の忌憚のないご意見をいただければ幸いです。

株式会社 **ADEKA** 三重工場
安全・環境管理委員会事務局
FAX 0594-76-3011

1. この環境・安全レポートの記載項目はいかがですか。
 - a. 物足りない
 - b. 普通
 - c. 充実している
 - d. その他()
2. この環境・安全レポートの記載内容はいかがですか。
 - a. 理解できない
 - b. 普通
 - c. よく理解できた
 - d. その他()
3. ご意見、ご感想をお願いします。

※ お名前、ご住所などは個人情報となりますので、記入は任意です。ご記入いただいた個人情報は本アンケートの調査・分析や今後の CSR 活動の参考にさせていただき目的に限り利用させていただきます。また、個人情報は適切に管理し、第三者への開示は行いません。

ご勤務先 _____ お名前 _____

連絡先ご住所 _____

電話番号 _____ FAX 番号 _____